

海こひし潮の遠鳴りかぞへつゝ、

をとめ  
少女となりし父母の家

歌 意

海が恋しい、父母が恋しい。私の育った堺のまちでは、夜になると海から潮の遠鳴りが聞こえてきます。茅渟ちぬめの海の遠鳴りを聞きながら育ったふるさとの家がしきりに思われます。

掲出歌集 『恋衣』 明治38（1905）年1月  
初出 「明星」 明治37年8月号、題は「みづあふひ」

（晶子26歳）

